

## 議 事 録

<input type="checkbox"/> 公開 <input checked="" type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開			部 分 非公開 理 由		
			文書管理責任者	保存期間	30 ( ) ・ 10 <input checked="" type="checkbox"/> 5 ・ 3 ・ 1 ・ 随
				作成日	令和4年3月11日（金）
部長	課長	課長補佐	係長	係	記録者所属
			職・氏名 高齢者係 主査 大塚伸吾 ㊤		

会議等の名称	第2回高齢者福祉拠点アドバイザーボード	開催日時	令和4年3月11日（金） 午後2時～3時50分
		場 所	東御市総合福祉センター
主催者(事務局)	福祉課高齢者係	司会者	司会進行：小林福祉課長 議事進行：武藤座長
出席者	【委員】武藤芳照委員（座長）、中村崇委員、岩橋輝明委員、岡田真平委員  【事務局】小林秀行健康福祉部長、小林裕次福祉課長、田中朋子地域包括支援係長、安原武志福祉推進係長、渡邊亮太高齢者係長、森山悦代副主幹（地域包括支援係）、渡邊恵美子副主幹（地域包括支援係）、小暮絵里子主任（高齢者係）、大塚伸吾主査（高齢者係）		
欠席者	甲斐尚子委員		

議 題	(配布資料)
(1) 高齢者福祉拠点のイメージ図について (2) 高齢者福祉拠点に対する提言書について	別紙会議資料のとおり
決定事項 <small>(要点を箇条書き)</small>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現在の守衛・控室の場所を職員休憩室・給湯室とし、現在の浴室（1）を多機能室に、浴室（2）を相談室2部屋に、その右隣を事務室にする。また、現在の教養娯楽室（1）を可動式ステージを備えた80畳のホールとし、現在のステージと機械室は倉庫とする。その他のスペースについては、フリースペースとする。</li> <li>・ 提言書の構成は「Ⅰ現状と課題」で2項目、「Ⅱ高齢者福祉拠点への提言」で6項目とし、Ⅰ1を「高齢者の現状と課題」、Ⅰ2を「高齢者センターの現状と課題」、Ⅱ1を「基本理念」、Ⅱ2を「基本理念に基づく具体的な実施事業（活動）」、Ⅱ3を「各スペースに求められる機能」、Ⅱ4を「入浴施設について」、Ⅱ5を「利用者の交通手段について」、Ⅱ6を「関係機関との連携について」とする。</li> <li>・ Ⅱ1基本理念の下にイラストを挿入する。また、提言書には高齢者福祉拠点の平面図と相関図を添付する。</li> <li>・ 相関図については、項目と記号の付け方を事務局で整理するほか、各要素の配置も見直す。</li> </ul>
次回への検討事項	
次回開催	(場所)

	(発言者名)	(発言内容)
討議内容及び経過	武藤座長	今日の議題は2つある。1つは、高齢者福祉拠点のイメージ図について。2つ目は、高齢者福祉拠点に対する提言書について。この2点について、意見交換・討議をお願いしたい。まずは、高齢者福祉拠点のイメージ図について、資料1の説明を事務局をお願いしたい。
	(事務局) 渡邊高齢者係長	現場見学しながら、議題（1）について説明（資料1）
	武藤座長	只今、現地を見ながら図面（資料1）の説明を伺ったので、ホールや事務室など個別に意見をお願いしたい。意見が出たところで全体として取りまとめて、この図面について集約したい。
	岡田委員	会議室については総合福祉センター3階との併用も考えられるが、今の3階の予約状況を考慮すると、2階に単独で会議室があった方が良いのか。
	(事務局) 小林福祉課長	名前は会議室としているが、どれだけの人に利用してもらえるのかということを考えた時に、例えば防音室にしてカラオケや三味線などの音が出る催しができる部屋としても考えている。市民の方が寄り集まることのできる囲まれた場所として考えている。
	岩橋委員	会議室というよりは、エンターテインメント室というものが良かった方良いと思う。
	武藤座長	前回の会議でも話題になった多機能室になる。会議ももちろんできるが、いろいろな交流の機会を提供できるスペースという意味になる。ここは会議室ではなく、仮に多機能室としておいて、防音室にするほか、会議をするとしたらリモートシステムも備えると合理的に打ち合わせができる。
	(事務局) 小林福祉課長	事務局でも、介護予防教室とは別のことで高齢者センターに来ていただきたいと考えている。
	武藤座長	会議室という名称ではなく、仮に多機能室として市民のいろいろなニーズに対応できるスペースとして活用するということがよしいだろうか。
	委員	はい。
	岩橋委員	（先ほどの説明では、）控室を使う人は庁用バスの運転手ということであったが、他にどんな人がどれだけ時間滞在するものになるのか。
	(事務局) 渡邊高齢者係長	お風呂を営業している時は、管理している職員が控えている場所になる。その他に庁用バスの運転手が休む部屋ということで控室が設けられている。今後、どのような形になっていくか分からないが、例えば土日も高齢者センターを開けるとしたら、守衛の方も利用する可能性はある。利用頻度としては、平日は庁用バスの運転手が利用し、休日は守衛の方が利用するということになる。
	武藤座長	そうすると舞台（ステージ）の控室ではなく、職員の休憩室ということになる。控室という名称だと舞台が近くにあるので職員以外の人が利用するように受け取れるので、ここは仮に職員休憩室としたい。
	(事務局) 小林福祉課長	バスの運転手が休憩する場所が欲しいということで設けた部屋になるが、この高齢者センターの中に必要かどうかということについては議論の余地がある。
	岩橋委員	例えば、資料1-③の図面では事務室が大きく確保されているが、この一角に職員休憩室を設けることは問題があるのか。
	武藤座長	いずれにしても職員休憩室があることは良いと思う。ただし、ここに事務室を設けるということが前提なので、庁用バスの運転手が第一にくるというよりは、ここに関わる職員全体の休憩室として少し休める空間としての機能はあった方が良くと思うがよしいだろうか。
	委員	はい。
	中村委員	前回の会議の際に公式の見解はなかったが、高齢者センター内に設ける事務スペースに15人程度の職員が移るという想定であると伺ったがそれでよしいのか。
	(事務局) 小林健康福祉部長	当初は総合福祉センター1階にある地域包括支援係（地域包括支援センター）の職員12名と高齢者係の職員5名程度が2階の高齢者センターへ移る想定であったが、具体的に配置を検討する中で、多くの職員が高齢者センターへ移ると他のスペースが十分に確保できないという問題が出てきたので、地域包括支援係だけでも移すことを考えている。
	中村委員	（資料1の①から④の図面では、）事務スペースの大きさはどれも同程度だが、ここには12名程度の職員が移るという認識でよしいのか。
(事務局) 小林健康福祉部長	はい。	
中村委員	分かりました。私の意見としては、高齢者やいろいろな人に利用していただきたいのでフリースペースがたくさんあることは有難いと思う。今回の工事で最もお金がかかるのが浴室と吹抜の部分	

	(発言者名)	(発言内容)
討議内容及び経過	中村委員	だが、おそらく5、6千万円かかると思う。ここに投入できる市の予算にも限りがあるが、理想としては広い方がよい。また、資料①の各面図ではステージを倉庫にするようになっているが、ここを敢えて倉庫にするのは勿体ないと思う。例えば、第5案として現在の吹抜や浴室を簡単な改修で倉庫にするイメージがあってもよい。要はお金がかかる部分には、人が行かないものを集めるということ。その上で、倉庫空間については、この施設内にある他の倉庫を含めて整理して考えるとよい。結論を言うと、大工事が必要な部分は人が行かないものにするべきというのが私の意見である。
	武藤座長	他の意見はあるだろうか。
	岡田委員	目的を持って来る高齢者は、構造がどうであれ目的地に行くことができ施設を活用できる。目的が曖昧でも入りやすく、居心地が良い空間が求められている中で、リーススペースは広い方が良いが、広過ぎててもという危惧もある。吹抜を埋めて活用することを前提に考え過ぎてしまうと、予算がつかなかった時に大幅な変更を余儀なくされるリスクがあるので、もし吹抜を埋める予算がつかいたら、その部分は居心地の良いラウンジになるというような理解で良いのか。
	武藤座長	吹抜の取扱いについては、資料1の①～④の各図面でそれぞれ特徴があるが、只今の質問への事務局の対応は可能だろうか。
	(事務局) 小林福祉課長	中村委員のご意見のとおり、浴室と吹抜を活用するとすれば5、6千万円以上のお金がかかる。良い起債や補助金があればやりやすいが、財政難の中ですべてを市の単独事業として行うのは大きなステップである。岡田委員のご意見のとおり、吹抜の活用を主要ポイントにしてしまうと、できなかった時にすべてがダメになってしまう。予算がつかいたら、吹抜の部分も活用するという方が、一歩先に進みやすいと思う。
	武藤座長	この場で議論するのは、リアルな形の計画の方が良いと思う。理想論だけを図面に落としても良くないので、市民のニーズに合っていて、且つリアルなところで収めておいて、予算がつかいたらプラスアルファもあるというものの方が議会への説明もしやすい。
	岡田委員	只今確認できたことを踏まえると、吹抜を事務室に活用する資料1-③の平面図は難しいと理解した。事務室については、検討委員会ではカウンターが壁に感じるという意見があったし、甲斐委員は事務室が入口にあって一声かけられると良いという考えを持っている。また、先ほど事務室に入る職員の人数の話もあったが、事務室がどの位置になるのか、他のスペースの活かし方にも影響してくるので、皆さんがどう思われているのか伺いたい。
	武藤座長	それでは各委員のご意見を伺ったので、各スペースについて1つずつ意見を集約していきたい。事務室の位置とスペースの程度について、ご意見をいただきたい。
	岩橋委員	資料1-①の案では、事務室を想定している場所の横がただの廊下になってしまうので勿体ないと思う。リーススペースとして広げるとしたら、どちらか隅の方へ事務室を寄せた方がよいと思う。
	中村委員	私も岩橋委員のご意見に賛同させていただきたい。今回のコンセプトは、来る人がフリーで使える環境が多い方が良いということなので、事務室は資料1-②の位置の方がよい。要は、市民はリーススペースを先に利用して、その後に相談に来るようになる。相談に来る人は本当に行政的な相談に来るのではなく気軽な相談で来るので、あまり表立って職員が仁王様のように施設の前に構えるのはどうかと思っている。事務室は、奥の方がよいと思う。
	武藤座長	他の意見はどうだろうか。
	岡田委員	職員12人の事務室が機能的に無理なく現在の浴室(2)に収まるのであればよいと思う。
	武藤座長	(資料1-②のように)相談室2部屋を事務室よりも奥にもってくれば、事務室が良い壁になって騒がしくない環境で相談ができる。ただし、カウンターと事務室の面積が資料1-①の場合と比較すると少し違いがある。
	(事務局) 小林福祉課長	資料1-①の図面では、カウンターを広くとっている。
	岡田委員	事務室だけを見れば、資料1-②と資料1-④は同じ場所に収まっているが、この2案でいくと多機能室を確保することができなくなってしまうことが気になる。資料1-①の事務室を柱の位置までせり出させて、その分カウンターの横幅をスリムにできれば職員が仁王様のように前の方にいる状況は解消されるだろうか。
	(事務局) 小林福祉課長	または、資料1-①の会議室2としてあるスペースに事務室を収めることができれば、その右側がすべてリーススペースとして使うことができる。
	武藤座長	柱の位置は重要なので、そこを注意しながらスペースと位置を決めた方が合理的。多機能室については、防音壁にするにしても静かな環境が必要な部屋の隣になるが。
	中村委員	奥の方がコンクリートで囲われているので、防音はしやすいし、工事もしやすいと思うが、あのような暗い場所を相談などの他の用途で使うかという疑問符が付く。やはり、あの部分は多機能室が良いと思う。

	(発言者名)	(発言内容)
討議内容及び経過	武藤座長	およそ皆さんのご意見を集約すると、現在の浴室（1）の部分を多機能室に、浴室（2）の部分を相談室2部屋に、さらにその右隣を事務室にするということになるかと思うが、市民病院側から連絡通路を通して入って来ると比較的空間を広く感じることができ、この場所に見て楽しい物を展示したりすることも考えられる。 可動式ステージとホールの関係性になるが、ステージはフィックス（固定）ではなくて、必要に応じて段を積み重ねてステージにするという意味で良いのか。
	(事務局) 渡邊高齢者係長	イメージとしては、ステージを使わない時は80畳のスペースになる。ステージを使う時は、ステージ分の面積が減ったスペースとなり、ステージを80畳の中に出すというイメージになる。
	武藤座長	ステージをつくる段は、倉庫に入れておくということなのか。
	(事務局) 渡邊高齢者係長	倉庫にする想定現在のステージは一段高くなっているの、その下に収納することができると考えている。
	岡田委員	中村委員からは、現在のステージを倉庫にするのは勿体ないという意見があったが、仕事をする側の意見として倉庫があった方が良いということも理解できる。また、倉庫としてどれだけのスペースがあったら良いのかというのも悩みどころ。
	中村委員	現在の浴室の場所に倉庫を設けて、現在の案で倉庫や可動式ステージとしている部分を相談室や事務室にすれば改修コストは安くなる。
	武藤座長	ホールについては、式典などのいろいろな用途で活用できるようにするための80畳とした方が他の人を説得しやすい。 現在のステージの部分を倉庫とすることがマストなのだろうか。
	岡田委員	例えば、多機能室の横に倉庫が入れば音のクッションにもなるが、事務室の近くに倉庫があった方が良いという仕事をする側の希望はあるのか。
	(事務局) 田中地域包括支援係長	倉庫の中に書類を収納するキャビネットを入れるスペースが確保できるのであれば、事務室に近い方が良いが、健脚度測定などに使う物を入れておくだけであれば近くでなくても良いと思う。
	岡田委員	相談室は2部屋必要なのか。
	(事務局) 田中地域包括支援係長	はい。
	(事務局) 小林福祉課長	想定している相談室は、1部屋が3メートル×5メートルほどの広さになる。
	(事務局) 田中地域包括支援係長	相談室については、間仕切りで1部屋にも2部屋にも変えられる形にしたい。
	武藤座長	その方が合理的である。場合によっては、スタッフだけの打ち合わせができる場所にもなる。
	中村委員	倉庫に入れる物にもよるが、エルゴメーターなどの備品であれば、現在のステージの部分が良いと思う。使う用途によって変わってくると思う。
	武藤座長	只今伺ったお話だと、倉庫に入れる物は備品が多く、書類を入れる書庫ではないという理解でよろしいだろうか。
	(事務局) 小林福祉課長	はい。
	武藤座長	そうだとすれば、現在のステージの場所を倉庫としても良いと思う。ただし、ホールはいろいろな用途で使えるという設定が良いと思うので、（現在のステージの場所に設ける）倉庫は大きなスペースにする必要はないということになるが、現在の機械室の場所に設けることとされているもう1つの倉庫はどうすべきだろうか。
	(事務局) 渡邊高齢者係長	資料1の平面図を作成した段階では、どれだけの職員が2階の高齢者センターへ移るのが分からなかった。今の地域包括支援係と高齢者係が移るとしたら、現在の事務室内にある物をそのまま移すのは難しかったので、倉庫のスペースを多めに設けさせていただいた。
	武藤座長	（現在の機械室から）濾過機を撤去すれば空間は生まれるが、使い勝手の部分では厳しいと思う。
(事務局) 渡邊高齢者係長	この部分は、倉庫にするのが一番良いと思う。	
武藤座長	その目的の方が、この状況に一番適合しているように思う。 これまでの話をまとめると、平面図の右上の部分は、セキュリティールームを含めて職員休憩室・給湯室とし、左下の方に事務室、間仕切りができる相談室、エンターテインメントや交流の場になる多機能室を設け、さらに現在のステージと機械室の部分を倉庫にするということになるが、何かお気づきの点はあるだろうか。	
岡田委員	それぞれの役割を持った場所の収まりであり、フリースペースも広く開放感があって良いが、このフリースペースがどのように有効活用されるかが危惧される部分でもある。フリースペースをどのように魅力的な場所にして、いろいろな人で賑わえるようにするかということイメージすることができたら良いと思う。	

	(発言者名)	(発言内容)
討議内容及び経過	岩橋委員	<p>前回の会議では武藤座長が「集まる」「測る」という動詞で施設の理念をまとめてくださったが、ここでどんな活動をするのかを動詞で考えると、まずは「集まる」があるし、「測る」「動く」「交わる」「伝える」というものがあると思う。例えば、「集まる」といっても「gather」という意味もあれば、「concentrate」という「集中して」という意味もあり、医療・福祉の機能が集中しているという意味にもとることができ、集まるという場所については、事務室やフリースペースが該当すると思う。「測る」というキーワードが非常に大事だったと思ったが、身体や頭を測る場所をフリースペースの中とするのか、別に部屋を設けるべきなのかということ考えた方が良く思う。また、「測る」と言っても物理的に測るというだけではなくて、「assess」も「測る」になるので、そのような高齢者の生活環境を測る（評価する）ようなことは相談室や事務室で扱われることになると思う。実際の行動の一つひとつで、スペースを考えていく必要があると思う。この案では、「測る」という部分をどこでやるのかが明確になっていない。部屋を増やすというのも難しいと思うが、「測る」という機能の場所をどこにするのかを考えていかなければいけない。</p>
	武藤座長	<p>岩橋委員のご意見は、先ほどの岡田委員のご意見とも共通する部分がある。ハード面については、先ほどまとめさせていただいた案で良いと思うが、ソフトの企画・演出の中に岩橋委員が言う認知機能を測るだとか、アセスメントするだとかいろいろな企画があると思うが、フリースペースだけではなくてホールも生まれるので、ホールを使って身体面を測り、認知機能の測定であればフリースペースを使って何か仕掛けをすればできるのではないかと。全体としてどのような企画を持ってくるのかという話であると思うので、ひとまずは、そういうことを含めたことができる空間の配置に収めていきたい。ただし、空間配置だけではなくて、それを最大限利用して効果が得られるような企画・事業・活動が必要になるという内容の提言になるのだろうか。フリースペースでよくあるのは、新聞や雑誌、映画、音楽、和歌、川柳、茶道、華道など挙げられるが、そういう交流の企画をどのように組み立てていくかということが次の大事な任務であると思う。他のご意見は如何だろうか。</p>
		(他に意見なし)
	武藤座長	<p>それでは、平面図上の企画（計画）については、（今回集約した）空間・スペース・各部屋の名前と機能、配置を基盤として検討委員会へ提示するという方向で良いだろうか。</p>
		(異論なし)
	武藤座長	<p>それでは、次の議題（2）へ移るが、これについては資料2と資料3が用意されている。資料2は市長への提言書の案であるが、Ⅰ現状と課題で2項目、Ⅱ高齢者福祉拠点への提言という部分で3項目、そして図面関係があり、最後の頁に委員名簿と検討経過があるという構成になっている。では、事務局から資料2と資料3について説明をお願いしたい。</p>
	(事務局) 渡邊高齢者係長 田中地域包括支援係長	<p>議題（2）について説明 (資料2・3)</p>
	武藤座長	<p>只今説明のあった提言書の内容について、お気づきの点があれば発言をお願いしたい。</p>
	岡田委員	<p>ボリュームの問題もあると思うが、1つ目は基本理念を謳っている部分にビジュアル的にキャッチできるものがあれば良いと思う。2点目は、Ⅱ3の部分になる。Ⅱ2の部分ではソフトのことを網羅的に記載されているが、続くⅡ3ではいきなりハードの各論になっているので違和感がある。Ⅱ3の記載内容については、ハード全体の話の中に入れて、結果として入浴施設を維持するよりも多機能室等を整備すべきという展開にした方が前向きであると思う。</p>
	武藤座長	<p>只今のご意見について、岩橋委員と中村委員は如何だろうか。</p>
	中村委員	<p>同感です。</p>
	岩橋委員	<p>私も賛同したい。</p>
	武藤座長	<p>私も同じ意見である。組み立てとして基本理念の部分で、まずは議論してきた全体の理念やソフトについて集約した文章があった方が良く思う。提言書の案（資料2）では、Ⅱ1（1）に「全世代が・・・」と記載されているが、この施設は高齢者福祉拠点ということなので、Ⅱ1（1）では高齢者のことについて記載し、続くⅡ1（2）では高齢者にとどまらずに全世代のことを考えているという論理にする方が良く。そして、Ⅱ1（3）は「市民が『集い』『ふれあい』『語り合い』『学び合い』自分らしく活動できる施設とする」というようなイメージになるだろうか。Ⅱ2ではソフトを集約しているが、そのⅡ2（4）にだけ「高齢者を始め・・・交流の場の設置」というハード面の記載がある。全体としては、理念や構想、目的を記載しているので、Ⅱ2（4）は「高齢者を始め・・・交流」としてはどうだろうか。Ⅱ3の部分については、全体のタイトルを「各スペースに求められる機能」とし、その（1）から順に事務室や多機能室、相談室、職員休憩室等の各部屋の機能・ハード面を記載し、その最後に入浴施設のことを記載してはどうだろうか。Ⅱ2をソフト、Ⅱ3をハードとし、その他の部分に交通手段や関係機関との連携について</p>

	(発言者名)	(発言内容)
討議内容及び経過	武藤座長	記載すると良い。 組み立てとして、Ⅱ1を基本理念、Ⅱ2をソフトとし、Ⅱ2のタイトル「基本理念に基づく具体的な実施内容」については日本語として工夫が必要で、「基本理念に基づく具体的な実施事業」「基本理念に基づく具体的な実施活動」などになるだろうか。また、Ⅱ2(4)のタイトルにある「場の設置」という言葉は削除する。そして、Ⅱ3のタイトルを「各スペースに求められる機能」とし、図面が生かされるように各スペースに名称を付して列記し、その説明を加えると全体として分かりやすくなる。また、図面を見ればソフトもハードも分かりやすく、全体としての構図も分かるものとなる。 他にご意見はあるだろうか。
	(事務局) 小林健康福祉部長	高齢者センターについては、これまで入浴施設を主としてやってきた。入浴施設を廃止して別のものにするということについては議会も市民も高い関心があり、どうして廃止するのかということを説明する必要がある。Ⅱ3の中で入浴施設のことを記載するよりも、独立した項目として記載したい。
	武藤座長	それならば、Ⅱ3では新しい施設の図面に落とし込んでいるスペースについて記載し、廃止する入浴施設については独立した項目として記載しておく方が説明がしやすくなる。Ⅱ3の次にⅡ4を設けて、そのタイトルを「入浴施設について」とするというところで良いだろうか。
	委員	はい。
	武藤座長	それでは、提言の構成はⅡ1からⅡ6までの全6項目となる。 資料2の5頁については、相関図や改修図面と書かれている枠があるが、この中には先ほど議論した内容を反映させた最新の図面を挿入するというところでよろしいだろうか。
	(事務局) 渡邊高齢者係長	はい。
	武藤座長	そして、資料2の6頁では、委員名簿と検討経過を記している。 では、全般的に提言書の内容についてご意見はあるだろうか。
	岩橋委員	資料3の相関図について、図上部【介護予防】の枠内に「・フレイル予防教室（ずくだし教室）」「・転倒予防教室（健脚度測定）」と記載されているが、これは現在出前講座としてやっているのか。
	(事務局) 田中地域包括支援係長	高齢者福祉拠点では、介護予防・健康づくりの場として介護予防やフレイル予防に取り組むこととしており、地域への支援として拠点から講師を派遣して出前講座を開くという意図でこのような記載にしている。
	岩橋委員	「*出前講座」の中にフレイル予防教室（ずくだし教室）や転倒予防教室（健脚度測定）を含めるよりは、フレイル予防教室（ずくだし教室）や転倒予防教室（健脚度測定）についても頭に同じ「*」を付けて外に出してはどうだろうか。その横の【認知症支援】の枠内に記載のある「認知症予防教室」についても同様であるが。
	(事務局) 田中地域包括支援係長	フレイル予防教室（ずくだし教室）や転倒予防教室（健脚度測定）、民間介護福祉事業所連絡会の講座、認知症予防教室（脳いきいき教室）については、出前講座の一つとして行っているものになる。
	岩橋委員	認知症カフェというのは、認知症の方やその家族が集まって相談・交流するカフェであるが、最近の先進事例では、認知症になる前のSCDとかMCIという状態の人が参加する「健脳カフェ」という取組が行われている。そこでは脳の機能を測って、いろいろなエンターテインメントなどを行っているが、そのような事業をここでも行うものと思っていた。 出前講座は、公民館などに行って開くものであるが、出前だけではなくてここでも常設で行って、状況に応じて出前もするという形に今後はなるのか。
	(事務局) 田中地域包括支援係長	高齢者福祉拠点の中でも認知症カフェや健脳カフェ、多世代交流のカフェなどを行いつつ、地域でも展開し、地域にそのような（自主的な）取組ができれば良いと考えている。
	岩橋委員	出前講座は出前講座としておいて、ここではフレイル予防教室（ずくだし教室）などに「*」を頭に付けた方が良い。
	中村委員	事務局側には、通って来てもらう教室と出張（出前）の違いを表現したいという意図があると思う。
岩橋委員	出張がメインというよりは、出張もやるという形に今後した方が良いと思うので、ここはフレイル予防教室（ずくだし教室）などに同じ「*」を付けた方が良いと思う。	
中村委員	この施設は、通って来て体験できるアミューズメント的な視野や集まって交流するということが必要になる。先日、千曲市で岩橋委員が述べたような脳トレのパソコンや相談ができる民間カフェがオープンしている。例えば、自動車運転のシミュレーターを体験するには教習所まで行かなければならないが、簡易的なものが（福祉拠点の中に）あれば、通って来て体験や講習が受けられ、何か異常が見つかれば病院へ行くこともできる。ハウステンボスには「健康の館」という施設もあるが、先進的な施設を見ていただければ運営の参考になる。前回の会議でワインのことにも触れたが、高齢者の飲酒に関する相談もできれば良い。また、資料3にはITに関する記載がないが、IT難民の高齢者が非常に多く、スマホが使いこなせなくてトラブルに巻き込まれることもある。本来は公民館でやるべきことではあるが、もっと身近に相談できる通える場所として、高齢者がパソコンやインターネットを使える環境を整えていただきたい。	
武藤座長	資料3については、第2回検討委員会で示された資料と同じものになるのか。	

様式第4号（第21条関係）

	(発言者名)	(発言内容)	
討議内容及び経過	(事務局) 田中地域包括支援係長	図の右下に総合福祉センター内にある社会福祉協議会や市福祉課・健康保健課を加筆し、高齢者福祉拠点との連携が分かるように修正している。	
	武藤座長	岩橋委員と中村委員からは、図中の「*」の意味と項目、名前の付け方をもう少し工夫をした方が、きれいで分かりやすいという事例のお話をいただいた。 図中の「*」に関する説明の記載はあるのか。	
	(事務局) 田中地域包括支援係長	説明は記載していない。	
	武藤座長	これでは「*」を付ける基準が分からない。先ほどのフレイル予防教室は図の下部にも上部にもある。また、出前講座については、「講座」と記載すれば先ほどの問題は解決するのではないかと思う。いずれにしても、項目と記号の付け方について事務局でももう少し整理していただきたい。	
	岡田委員	資料3では、上に地域資源、下に高齢者福祉拠点があって、高齢者福祉拠点が地域を下支えしているというイメージであると思うが、高齢者福祉拠点と地域は相互関係にあると思うので、両者を左右に配置して、その下に社会福祉協議会や市福祉課・健康保健課があるというイメージにしてはどうだろうか。今後、この図が独り歩きする可能性があるので、説明しやすくして分かりやすい資料となるような工夫ができると思う。	
	武藤座長	各項目を細かく書き過ぎるよりは、全体像や組織・機関の役割分担が分かりやすい方がきれいである。また、渡り廊下で繋がっている市民病院が記載されていない。	
	岩橋委員	私が誤解していた部分もあるが、図の下にある高齢者福祉拠点をもう少し目立つようにした方がよい。また、地域の資源の記載が細か過ぎると思う。	
	武藤座長	この相関図は提言書に添付されて今後残る資料となるので、かなり重たい意味がある。他にご意見はあるだろうか。	
	(事務局) 渡邊高齢者係長	資料3の相関図は人が中心にいるイメージで作っているが、「人」という文字が記載されていないので、何処に人がいるのかという指摘を受けかねないと思っている。「人」という文字が入っていないくても問題はないだろうか。	
	(事務局) 小林福祉課長	昨年度、地域包括ケアシステムのイメージ図を提示した時に、人が真ん中において様々な機関が支えていくのではないかというご意見といただいた。また、子どもサポートセンターに関しても議会で同様のご意見があった。この資料が今後独り歩きする可能性があることを考えた時に、事務局でもこのことが議論になった。	
	岡田委員	先ほど基本理念のところにイラストを挿入するという話をしたが、これとニュアンスが近いように思う。パーソンセンターの地域包括ケアシステムであるという理念的なものを絵で見せて、その仕掛けはこうであるというものを表現できれば良い。基本理念の下に人が真ん中の絵があると救われると思う。	
	武藤座長	(人を)入れるのであれば、基本理念の部分になる。「個」を大切にされた福祉の総合的な拠点として設定し、人が真ん中にいるということを文章で表現し、分かりやすいイラストがあれば良い。 資料3の相関図に「人」という文字さえ入れれば良いというのは、やや違うと思う。全体として「場」でまとめているので、その中に「人」を入れると分かりづらくなる。小林福祉課長がおっしゃったようなことは、全体像で読めるようにすれば良い。 それでは、これでよろしいだろうか。	
	(事務局) 小林福祉課長	はい。	
	武藤座長	では、協議事項は以上のようなので座長の仕事は終わりになる。濃密な内容の2回の会議で取りまとめることができ、ありがとうございました。	